

(様式4-1) 社会資本総合整備計画 事後評価書

1. 整備計画										
計画の名称 ④ 静岡県の漁港における安全で潤いと憩いのある海岸整備の推進(第2期)										
計画の期間 平成27年度 ~ 令和元年度			交付対象 静岡県、熱海市、東伊豆町、松崎町、西伊豆町、沼津市、静岡市、牧之原市							
計画の目標										
想定される津波及び台風等による高潮・波浪に対し、浸水対策や侵食対策を実施し水害に強い海岸をつくと共に、海岸保全施設の老朽化対策として長寿命化計画の作成及び実施し、施設の適切な維持管理に努め、安心・安全な県民生活の確保を図る。										
計画の成果目標(定量的指標)										
<ul style="list-style-type: none"> 県民の生命財産を守り、国土保全に資する海岸保全施設を510m整備する。(3,357m(H26末)→3,867m(R2末)) 水門・陸間の自動閉鎖化・遠隔操作化を6漁港海岸で実施する。 施設の機能を継続的に確保するため、海岸保全施設を、(i)2漁港海岸で長寿命化対策工事を実施する。(ii)10漁港海岸で長寿命化計画を作成する。 										
定量的指標の定義及び算定式						定量的指標の現況値及び目標値			備考	
						当初現況値	中間目標値	最終目標値		
						(H26末)	(H 末)	(R2末)		
① 海岸保全施設を510m整備する。						-		510m	妻良、戸田、静岡、用宗、地頭方、白田	
② 水門・陸間の自動閉鎖化・遠隔操作化を6漁港で実施する。						-		6漁港	田子、仁科、安良里、妻良、静岡、地頭方	
③ 施設の機能を継続的に確保するため、(i)2漁港について海岸保全施設の長寿命化対策を実施する。 (ii)10地区について海岸保全施設の長寿命化計画を策定する。						-		(i)2地区で実施 (ii)10地区で実施	(i)静岡、焼津 (ii)初島、雲見、石部、岩地、仁科、田子、安良里、西浦、静岡、焼津	
全体事業費		合計(A+B+C)	2,832百万円	A	2,832百万円	B		C	効果促進事業費の割合 C/(A+B+C)	
事業種別		主な交付対象事業	要素となる事業名(事業箇所)		事業内容(延長・面積等)		市町名		全体事業費(百万円)	備考
海岸(漁港)			海岸保全施設整備事業(高潮対策)(妻良漁港海岸)		護岸L=55m、陸間N=1基		南伊豆町(妻良漁港海岸)		85	
事業数			海岸保全施設整備事業(侵食対策)(用宗漁港海岸)		離岸堤L=84m		静岡市(用宗漁港海岸)		357	
19			津波・高潮危機管理対策(妻良漁港海岸)		水門・陸間自動閉鎖化		南伊豆町(妻良漁港海岸)		120	
2. 事業の進捗状況 (○:計画期間中に完成 △:計画期間終了後に完成見込 -:その他(備考欄に具体的に記入(中止、未実施等)) (計画期間中に他の整備計画に移行したもので、 ●:本計画の期間中に完成 ▲:本計画の期間終了後に完成見込)										
計画の移行なし		○	9	△	8	-	2	備考	未実施(津波対策の見直し)	計画の移行あり ● ▲
3. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況										
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況										
戸田漁港については、静岡方式による津波対策の検討のため地元意見の取りまとめに時間を要し、目標延長の整備に遅れが生じたが、その他の漁港海岸については、概ね計画通りに施設整備を行うことができ、県民の生命・財産の安全確保に努めることができた。										
II 定量的指標の達成状況		指標①(海岸保全施設の整備延長)	最終目標値	510m	目標値と実績値に差が出た要因	戸田漁港での、防護、海岸利用及び景観に配慮した施設整備に対する地元意見の取りまとめに時間を要し、事業着手が遅れたためである。				
			最終実績値	435m						
			最終目標値	6漁港						
			最終実績値	6漁港						
			最終目標値	(i)2漁港で工実施 (iii)10漁港で計画策定						
			最終実績値	(i)2地区で工実施 (iii)10漁港で計画策定						
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況		静岡漁港及び妻良漁港では、海岸保全施設の整備のほか、津波・高潮危機管理対策事業により陸間・水門の自動閉鎖化や遠隔操作化を実施し、漁港利用の利便性と併せ人命財産の防護が確保された。								
4. 今後の方針等										
計画期間内に完了しなかった漁港の海岸保全施設の整備については、早期完成を目指し、引き続き背後地域の人命財産の安全確保を目指す。										

(1) 事業の目的**【漁港整備課】**

想定される津波及び台風等による高潮・波浪に対し、浸水対策や侵食対策を実施し水害に強い海岸をつくと共に、施設の適切な維持管理に努め、安心安全な県民生活の確保を図る。

(2) 指標：県民の生命・財産を守り、国土保全に資する海岸保全施設の整備進捗

漁港内で防潮堤等の新設や嵩上げ整備を実施し、想定される東海地震等の津波被害から背後集落の人命・財産を守る海岸保全施設整備事業（高潮・侵食・耐震対策）の事業箇所を対象とした。

指標の達成状況

令和2年度末の最終実績見込値は435mであり、目標（510m）を達成できなかった。主な理由は、戸田漁港での、防護、海岸利用及び景観に配慮した施設整備に対する地元意見の取りまとめに時間を要し、事業着手が遅れたためである。

計画の成果目標	定量的指標			
	H26末	R2末最終目標	R2末最終実績見込	R2末達成率
対象漁港の計画期間内における海岸保全施設の整備延長	— [3,357 / 5,855 (57%)]	510m [3,867 / 5,855 (66%)]	435m [3,792 / 5,855 (65%)]	85%

[対象漁港の海岸保全施設整備済延長/対象漁港の海岸保全施設整備必要延長(整備率%)] (単位：m)

(3) 指標に関連する実施事例**(4) 定量指標以外の効果発現状況**

静浦漁港及び妻良漁港では、海岸保全施設の整備のほか、津波・高潮危機管理対策事業により陸間・水門の自動閉鎖化や遠隔操作化を実施し、漁港利用の利便性と併せ人命財産の防護が確保された。

(5) 今後の方針と目標達成見込み

計画期間内に完了しなかった漁港の海岸保全施設の整備については、早期完成を目指し、引き続き背後地域の人命財産の安全確保を目指す。